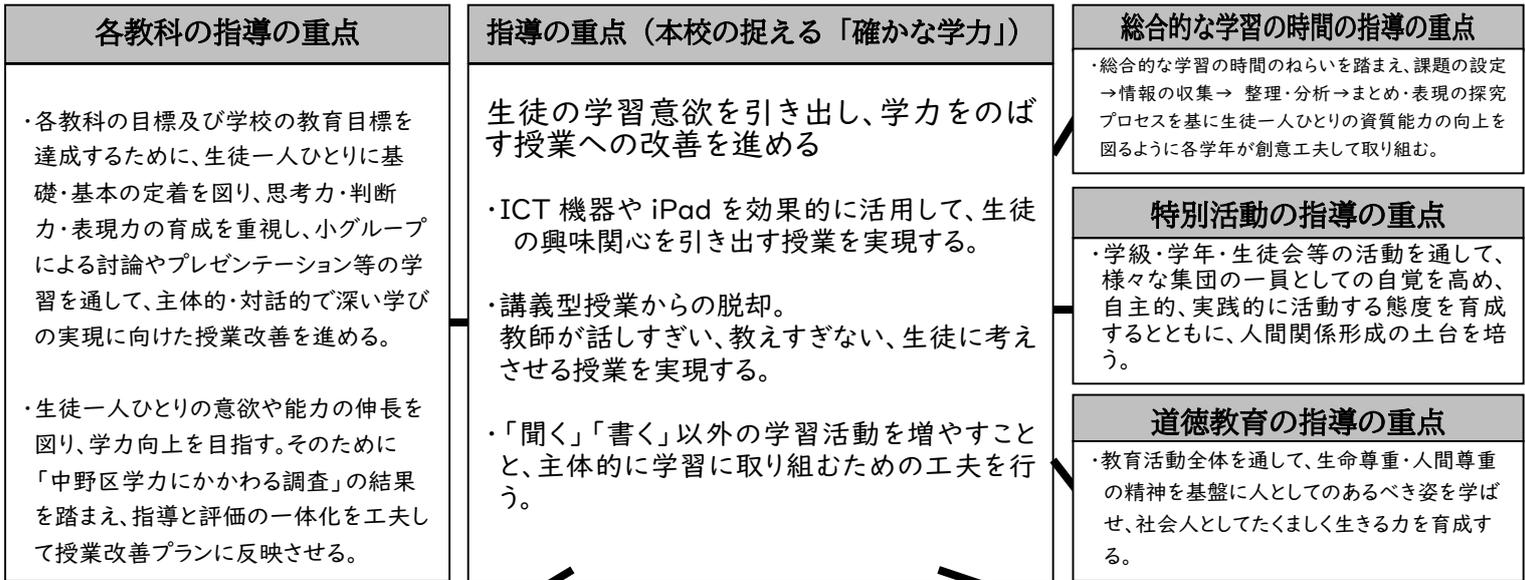


1. 全体計画

学校教育目標	
・自ら考え 正しく判断し 実践できる人	・自他を大切にし 社会に貢献できる人
・健やかで 人間性豊かな人	

令和4年度学校経営方針（学力向上に関わる要点）
<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領を踏まえ、指導内容の見直しと指導と評価の一体化を図り、生徒の確かな学力の定着に努める。 ・個別最適な学びと協働的な学びのそれぞれを一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図り、一人ひとりの資質・能力が確実に育成できる教育を実現する。 ・カリキュラム・マネジメントの視点を生かし、生徒及び学校の実態に応じた授業の改善に努め、教育活動の充実を図る。



キャリア教育の重点
<ul style="list-style-type: none"> ・将来を見通した学習や生活をするための指導・援助を行うために、学年ごとに「キャリア・パスポート」を活用し、年間の計画に位置づけて指導を展開する。自己理解を深めさせることで、主体的に進路を選択して自己実現を図る能力・態度を育成する。

生活指導の重点
<ul style="list-style-type: none"> ・日常のあらゆる場面を捉えて、生命の大切さや尊さ、生きることの素晴らしさを理解させ、自己肯定感を高めさせるとともに、かけがえのない自他の生命を尊重する態度を育成する。 ・社会の一員として社会生活のルールを守る態度を養い、自他を大切に、思いやる心豊かな生徒の育成を図る。

授業改善の視点					
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	評価の工夫	校内研究・研修の工夫	小学校との連携	家庭・地域との連携
<ul style="list-style-type: none"> ・一人一台の端末および Google Classroom や ICT 機器を活用した主体的かつ対話的に学ぶ、ニューノーマルの学習を実現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が抱える様々な教育課題を改善し、絶えず変化できる社会情勢に対応できるように、カリキュラム・マネジメントを進め、十分な授業時数の確保に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導と評価の一体化を目指し、学習評価の妥当性、信頼性を高めるために、評価に関する実践事例を蓄積し校内研修等で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・マネジメントの観点から、小学校からの学びのつながりを意識することで、より効果的な学習指導を展開するために、授業改善プランを共有し、乗り入れ授業を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の活用や家庭および関係諸機関との情報共有により、開かれた学校づくりを進める。授業と家庭学習を連携させた新しい学習を定着させることで、個別最適化された学びを実現させる。

学力向上に向けた任期付短時間勤務教員の活用
<p>数学の少人数指導での学習補助、英語の授業での個別指導の補助、長期休業中の補習学習の補助として活用を図る。</p>

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
1年	区学力調査の結果の分析 <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に全国・区の正答率や目標値を上回っている。(目標値よりも+5ポイントのものは、26項目中18項目) ・「漢字の書き」「話の内容が明確になるよう、話の構成を考える」「情報の関係を理解し、文章の情報を整理する」ことに課題が見られる。 	具体的な授業改善案(手だて) <ul style="list-style-type: none"> ・漢字を定着させるため、毎週漢字学習を課題として出し、小テストを実施することで学習の習慣化を目指す。状況に応じ、補習も実施する。 ・説明的文章における情報同士の関係の捉え方を向上させるため、毎週末に副教材を活用し、多様な文章の読み取りを出すことで、自ら好んで読まないが日常生活の中では切り離せない文章の「読み方」を定着を図る。
	授業における課題 <ul style="list-style-type: none"> ・得意な生徒、苦手意識のある生徒に関わらず、達成感と国語的楽しみをいかに持たせるかが重要である。家庭学習と授業での要点の確認を上手くつなげ、ICT 機器や副教材も活用しながら、スモールステップを踏みながら取り組んでいく。 	
2年	区学力調査の結果の分析 <ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの領域(6領域中5領域)で目標値、全国・区の正答率を上回っている。 ・我が国の言語文化に関する事項の領域では、ポイントが低い。(全国平均-5.9、区平均-1.9) 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の基礎知識を再度確認し、まずは古典に対する苦手意識をもった生徒を減らす。その上で、内容の面白さに触れ、我が国の言語文化を学ぶ意義を感じられる授業にしていく。 ・文章を書く際は相手や目的に合わせた書き方を提示し、基本となる形式を元に、徐々に書く力を身に付けさせていく。また、自身の考えに説得力をもたせるために、根拠のある意見を述べられるようにしていく。
	授業における課題 <ul style="list-style-type: none"> ・文章を読むことに対して興味を示す生徒が多い一方で、文章を書くことに対して苦手意識をもつ生徒が多い。 ・文法・語句に関する事項や、古典の基礎知識など、知識量が足りていないことによる不安感が見られる。 	
3年	区学力調査の結果の分析 <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に3年間で徐々に全国・区平均から下がっており、領域では言語は上がったが、我が国の言語文化に関する事項はポイントが低い(全国平均-10、区平均-7)。 ・観点では主体的に学習に取り組む態度が低く、解答法は選択・短答式は正答率が高いが記述式では低い。また記述内容で、読み取ったデータの文章化と話語による表現が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の言語文化に関する事項については年々数値が下がっており、基礎知識が定着していないこと、それによって読み取れないことから苦手意識につながっている部分があると思われる。古典文学の基礎知識を再確認し、親しみながら読解につなげていく。 ・説明的文章の読解と、その内容に対する意見の文章化は、語彙の少なさによって部分的な読解で文章化すること、またデータ読み取りによる客観的な意見文の書き方が習得できていないと考えられる。多分野の説明的文章を読んで語彙を増やし、文章化の練習を繰り返して、書く力を身につけていく。 ・主体的に取り組む態度の低さは、課題量や内容による取り組む意欲の違い、情報の過多による知識欲の減退も考えられる。単元の導入や声かけを工夫しながら、生徒の興味関心の高いものを扱っていく。
	授業における課題 <ul style="list-style-type: none"> ・決められた課題に対しては熱心に取り組む姿が授業内でも多く見られるが、通常時も自主的に別途課題を進めることや、前もって試験後の提出等に備える行動は少ない。 ・文学的文章は朝読書等で読み慣れているが、説明的文章の読解と内容に対する意見の文章化に時間がかかる。また古典文学に対しても苦手意識が強い生徒が多い。 	

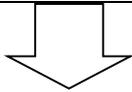
現状分析を受けて、3年間を通して国語科で身に付けさせたい力とその方策

- ・興味、関心を持って主体的に学習に取り組む力
→基礎・基本事項を小テストやデジタル教材等を活用しながら正しく理解・定着させ、苦手意識を軽減させていく。
- ・漢字や語句等、言語に関する事項について正しく理解し活用する力
→プリントやワークだけでなく、iPadを活用しながら多様な文章を読む機会を増やし、より実践的な活用力を育ていく。

(2) 社会科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・地理・歴史に対する興味・関心が高く、個々の社会的事象について豊かな知識を習得している生徒が多くいます。また、積極的に応答し発言する生徒も見られます。 ・社会的事象の関連を理解し、自分の言葉にしてまとめる力が不足し直感的に回答してしまう生徒もいます。社会的事象を関連付けて資料などに基づいて自分の言葉でまとめ、発表する力をつけることが課題です。 ・興味・関心が低く、小学校で履修した知識や基礎的な知識の定着が不十分な生徒もいます。 	<p>【授業の質を向上させる取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ハガキ新聞」の作成に取り組みせ、資料を用いて簡潔に自分の言葉でまとめ、表現する学習を取り入れます。 ・歴史分野では、さまざまな出来事を関連付けて理解したり、資料を活用して学習するような授業を進めていきます。 ・ICTによる動画や視聴覚教材の提示や、アニメ教材などを活用することで、生徒が興味・関心をもって授業に取り組めるように工夫します。 ・小テストなどを繰り返し行うことで、学習を促し基礎的な知識の定着を図ります。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・地理・歴史に対する興味・関心が高い生徒が多いが、教科に対する苦手意識をもっている生徒もみられる。 ・複数の資料を比較しながら、関係性をとらえる視点が身につけてきた生徒が増えてきた。 ・根拠を明らかにして自分の考えを論理的にまとめることができる生徒が増えてきた。しかし、授業では理解するが、振り返り・繰り返しが不十分なため、基礎的な知識や技能の定着が不足している生徒も見られる。 ・1問1答式ではない課題解決型の問題に対しても、「正答は何か」にこだわり、自分の考えを述べることをためらう生徒が多い。 	<p>【授業の質を向上させる取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の知的好奇心を揺さぶり、興味・関心をもって主体的に参加できるように教材・学習課題を工夫する。また、生徒が理解できたことや身につけたことを実感できるように、学習の振り返りを大切にする。 ・資料の読み取りや分析する課題に繰り返し取り組みませる。今後は、資料から重要なポイントを見つかる課題も増やしていく。 ・個々の具体的な事象から、一般的な知識につなげることができるよう、学習したこと概念的な理解として考えをまとめること繰り返し行う。 ・話し合い活動で、お互いの意見を尊重するよう指導し、自分の考えを述べやすい雰囲気づくりをする。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に社会科に対する興味・関心が高く、学習内容に関する自分の考えを持つとする生徒が多い。 ・基礎的・基本的な知識や技能の定着が不十分なため、考えの根拠が不明確であったり、不十分であったりする生徒も見られる。また他者の考えと比較検討をし、自身の考えを深めていく力も不十分である。 ・試験対策を行う際に、学習内容の暗記にこだわる生徒が多い。個別の知識を一問一答形式で学習するだけでなく、概念として知識を活用できる能力を育む必要がある。 	<p>【授業の質を向上させる取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、生徒の知的好奇心を揺さぶるような教材、授業展開を工夫する。公民的分野では、昨今の社会的課題や生徒の生活に結びつく身近な話題を教材に取り上げ、自分の生活や生き方とつなげて考えられるようにする。 ・授業で生徒が受動的にならないよう、生徒が発言する場面を多くする。授業への積極的な参加を促し、授業の理解を深める。その上で、復習の習慣を定着させる。 ・知識を活用して、単元のまとめを行う。また学んだ知識を他の単元でも活用できるように、概念的な理解としてまとめることができる課題を行う。



現状分析を受けて、3年間を通して社会科で身に付けさせたい力とその方策
<p>各分野の具体的な事象に関する学習を進めていく中で、一般的な知識へとつなげていき、学習したことを活用して考えられる力を身に付けさせる。そのために、個別の知識としての学習でとどめず、生徒自身の生活や現在の社会的課題とのつながりを意識させ、生活している場所や時代は違えど「自分だったらどうするか」という視点を持って、自分の考えを持つよう促していく。また、基礎的・基本的な知識や技能を身に付けさせるために、NHK for schoolの動画などを用いてより効果的な方法で予習や復習を行うよう促し、学習習慣を定着させていく。そのうえで、既習事項の社会科の用語を用いることを意識させて、自身の考えをまとめたり、学習事項の振り返りなどを繰り返し行っていく。</p>

(3) 数学科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
1年	<p>区学力調査の結果の分析</p> <p>目標値が68.3%に対して、校内の平均正答率は74.2%と目標値を5.9ポイント上回った。領域別正答率もすべての領域で目標値を上回る結果となったが、個々の問題で見ると小数・分数に関する文章題の正しい式を選択する問題、図形の拡大図を読み取る問題、場合の数の誤りを指摘する問題が目標値を下回った。特に、場合の数の問題は順列と組合せの違いが理解できていない回答が多く見られ、数値も12.1ポイント下回っている。</p>	<p>具体的な授業改善案（手だて）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業始めの計算ドリルを行い基本的な知識・技能の確実な定着を図る。基準に到達しない生徒には補充学習を行い、取り残さない指導を徹底する。 【授業の質を向上させる取組】 ・授業の中で小集団活動を積極的に取り入れ、自分の考えを発信するとともに、他の意見を取り入れることで多くの活用方法を学んでいく。 ・特別な支援が必要な生徒には、個別に任期付短時間勤務教員に協力してもらい、学習への参加を促していく。 ・達成率が低い項目については、中学の授業でも触れていき、復習していく。
	<p>授業における課題</p> <p>小学校から教科名も算数から数学に変わり、心機一転して頑張ろうとしている生徒が多く見られ、小学校算数の復習から入る者も見られた。その姿勢もあり基本的な知識・技能は身につけているが、その技能を活用し、正当を導く力はまだ不足している。授業内でも基礎内容の充実を図っているものの、それをどのように活用できるか考えさせるかまで到達できていないことが課題である。</p>	
2年	<p>区学力調査の結果の分析</p> <p>目標値が60%に対して、校内の平均正答率は68.7%と目標値を6.8ポイント上回っている。区の平均正答率も3.0%上回っている。問題の内容別正答率も各内容とも、目標値を上回っているが、平面図形、データの散らばりと代表値については、区の平均正答率をそれぞれ0.3ポイント、3.5ポイント下回っている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業始めの計算ドリルの取組を引き続き行っていく。基準に到達しない生徒には補充学習を行っていく。 【授業の質を向上させる取組】 ・授業の中で、自分の考えをまとめ、小集団の中で発表し、それぞれの考えの良さを感じ、取り入れていく活動を行っていく。 ・特別な支援が必要な生徒には、個別に任期付短時間勤務教員についてもらい、学習への参加を促していく。 ・達成率が低い項目については、中学の授業でも触れていき、復習していく。
	<p>授業における課題</p> <p>学年が上がり新たな気持ちで授業に取り組むことのできる生徒が増えてきて、基礎的な計算については定着している。データの散らばりと代表値については、用語を理解したり、作業をしてヒストグラムや度数分布表を作ったりすることはできるが、作成した表などの分析をすることができていない。与えられた資料から自ら考えることができていない。</p>	
3年	<p>区学力調査の結果の分析</p> <p>調査全体の目標値58.2%に対して、校内平均正答率66.7%と8.5%上回っている。一方で、一次関数・図形の性質・証明・データの分布では、目標値に達していない設問も見られた。特にデータの分布では、箱ひげ図と四分位範囲の理解について目標値70.0%に対して、校内平均正答率61.2%と8.8%下回っている。この原因として、当該の履修内容を振り返ったり、単元や教科を横断して活用する機会が少ないため、知識の定着が不十分であったと考えられる。</p>	<p>【授業の質を向上させる取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業始めの計算ドリルと小テストを行う。また、小テストの基準に到達しない生徒には補充学習を行う。 ・授業の中で、自分の考えをまとめ、小集団の中で発表し、それぞれの考えの良さを感じ、取り入れていく活動を行っていく。 ・授業内での理解度を高めるため、板書を写す作業をなくし、課題を思考することに集中させた授業を取り入れていく。 ・達成率が低い項目については、単元を横断して触れ、復習の機会を増やしていく。
	<p>授業における課題</p> <p>授業ごとに基本的な知識・技能に関する復習は取り入れているが、資料の活用の単元について、学習した内容を復習したり、活用したりする機会を充実させる必要がある。生徒の実態に合わせて復習教材の内容を再検討していく。また、新しい内容項目も含まれているので、教科内で情報を共有し、教材研究を進めていく。</p>	

<p>現状分析を受けて、3年間を通して数学科で身に付けさせたい力とその方策</p> <p>基本的な知識・技能の定着を目指して、既習事項の復習・活用の機会を充実させていく。また、主体的に学びに向かう態度や思考力・判断力・表現力を養うために、板書を写す作業時間を短縮し、課題を思考することに集中させた授業を取り入れていく。</p>
<p>習熟度別少人数指導の充実に向けて</p> <p>教科内で学習内容や授業進捗の情報を共有し、生徒の実態に合わせた教材研究を進めていく。引き続き、生徒の習熟度に合わせたクラス編成と、個に応じた課題提示・資料準備を充実させる。</p>

1. (4) 理科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
1年	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な知識はあるが、思考・判断・表現の力に課題がある生徒がみられる。 理科に興味・関心をもつ生徒が多い一方で、苦手意識のある生徒もいる。 教員が授業内で説明しすぎてしまう場面がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内で、生徒が考え自分の意見をかかせる時間を増やし、思考・判断・表現の力を伸ばす。 授業の導入に、身のまわりの具体的な例や映像資料を活用し、生徒の興味・関心を引き出し、学習への意欲を出す。 【授業の質を向上させる取組】 ICTを活用した生徒の活動場面をなるべく毎授業に取り入れる。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力が定着しつつある生徒と、課題がある生徒の二極化が見られる。 解き方や考え方を別な内容で用いることが苦手な生徒がいる。 目に見えない現象を想像することが苦手な生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 暗記をさせるのではなく、原理原則を理解して知識を応用できるような授業内容にする。 観察や実験、各単元において考察する時間を確保して考える力を身に付けさせる。 【授業の質を向上させる取組】 達成度の低い単元及び必要な単元は授業内で再度取り扱い定着を図る。 生徒が調べて考えるような作業を増やす。 目に見えない現象も視覚的に想像しやすいようにする。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な知識・技能はある生徒が多いが、思考・判断・表現に課題のある生徒が多い。 理科を得意とする生徒がいる一方で、苦手意識をもつ生徒もいる。 解き方や考え方を身につけることを苦手とする生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内で、生徒が考え自分の意見をかかせる時間を増やし、思考・判断・表現の力を伸ばす。 授業の導入に、身のまわりの具体的な例や映像資料を活用し、生徒の興味・関心を引き出し、学習への意欲を出す。 【授業の質を向上させる取組】 ICTを活用した生徒の活動場面をなるべく毎授業に取り入れる。

現状分析を受けて、3年間を通して理科で身に付けさせたい力とその方策

- 授業内の班活動やレポート課題を行うことで、基本的な知識・技能を活用し課題に対して、自分の意見を考え自分の言葉で表現できる力。
- 授業内で苦手意識のある単元を繰り返し行うことで、粘り強く課題に取り組む力と自分で課題解決に向かう力を養う。

(5) 音楽科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
1年	<p>コロナ禍において長期に渡り合唱ができていないため、姿勢、発声等基礎的なことができていないが、全体的に大変真面目で、指示されたことに対して意欲的に取り組もうとする。ただ、男子生徒に変声前、変声中、変声後が混在しパート分けにも苦慮している。この変声期に合唱が苦痛、嫌いとならないように上手に乗り切らせる。</p>	<p>感染予防を徹底させながら、正しい発声、発音、身体の使い方を身につけさせる。 IPadも利用しながら、合唱曲のパート別音源なども活用し、速度や旋律、テクスチュア、強弱、構成など音楽を形作る様々なものに目を向けさせ、自ら表現の工夫ができるように工夫させる。 【授業の質を向上させる取組】 ・授業規律の確立 ・正しい姿勢、発声、発音の繰り返し指導。 ・発声、発音、用語の意味等逐一楽譜に書き込みをさせ、合唱を創り上げていく過程を大切にさせる。</p>
2年	<p>全体としては真面目に取り組めるが、切り替えがなかなかできない生徒も多い。一方で周りに声かけができる生徒も各クラスにいる。パートリーダーも意欲的に練習の中心となろうとしてくれているので、パート練習のコツなどきめ細かな指導が必要と感じる。</p>	<p>感染予防を徹底させながら、正しい発声、発音、身体の使い方を身につけさせる。 IPadも利用しながら、合唱曲のパート別音源なども活用し、速度や旋律、テクスチュア、強弱、構成など音楽を形作る様々なものを感じ、知覚したこととの関わりを考え、歌唱表現の創意工夫をさせる。 【授業の質を向上させる取組】 ・授業規律の確立 ・正しい姿勢、発声、発音の繰り返し指導。 ・パートリーダー主体のパート練習 ・発声、発音、用語の意味等逐一楽譜に書き込みをさせ、合唱を創り上げていく過程を大切にさせる。</p>
3年	<p>大変真面目であるが、自信のなさが表情や合唱に表れ、全体的におとなしく、受け身である。パート練習は各パートリーダーが中心となって進めることができています。表情や身体を使って、最上級生としての自覚とプライドをもち、堂々とした歌唱をすることができるように指導していきたい。</p>	<p>合唱を創り上げる過程の楽しさを実感させる為にも、選曲にも配慮し、最上級生が取り組むのにふさわしい曲に取り組みさせる。旋律だけでなく、歌詞にも思いを馳せ、旋律との関わりを考えさせ、主体的かつ協働的に練習に取り組みさせる。 【授業の質を向上させる取組】 ・授業規律の強化 ・パートリーダーの育成 ・自主的、計画的なパート練習の確立 ・発声、発音、用語の意味等逐一楽譜に書き込みをさせ、合唱を創り上げていく過程を大切にさせる。 ・文化発表会前の交流会において、最上級生として聴かせる合唱をすることを常に意識させる。</p>

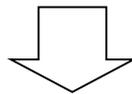
現状分析を受けて、3年間を通して音楽科で身に付けさせたい力とその方策

コロナ禍において、マスクをつけ、互いに向き合わないようし、さらに密にならないように合唱練習を進めることは今後しばらく続くと思われる。合唱を創り上げるには厳しい状況ではあるが、感染防止を徹底しながらも、毎時間授業の目標を設定し、振り返りもさせる。また、合唱力を高めるためにも、パート練習に力を注がせ、パートの中での「個」の力も高めていき、互いに聴き合う活動を通して「他」を認める心情を養いたい。練習の仕方としては、各学年パートリーダーによる主体的で、「どのように表現したいのか。」「どのような工夫が必要なのか。」など意見を出し合い、生徒発信型の練習が軸になるように取り組ませたい。そのためにもパートリーダーの育成をし、ゆくゆくは3年のパートリーダーが1，2年のパートリーダーにパート練習の進め方を指導する場であるパートリーダー講習会を実施したい。そして、「上級生が手本」となる聴かせる合唱ができる学校、歌声があふれる学校を目指したい。

(6) 美術科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・制作に意欲的に取り組む生徒が多い一方でアイデアが単一的で深められない生徒が多い。 ・時間をかけて取り組む制作について、集中力が続かない生徒が一部いる。 ・鑑賞の授業で美術作品や他の生徒の作品について、興味を持って鑑賞する生徒が多い。しかし、自分の考えを具体的に言葉にすること、文字で表現することに慣れていない。 ・対象物をよく観察し、表現の基礎となる「描写する力」「配色を発想工夫する力」「構成を発想する力」を身に付けさせたい。 ・小学校図工での技術面での理解・定着について、今までの経験値をもとに、それを活用する力を育みたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携で、授業のねらいを小・中の指導者が共有し、効果的な指導を行いたい。 【授業の質を向上させる取組】 ・視覚的に分かりやすく記憶に残る導入の工夫、制作に集中して活動できる美術室の整備を行い、生徒も各自の端末を使用して、参考作品を見いだしたりして、意欲を高める。 ・生徒作品や参考作品を示し、友達の良いところを伝え合うなどの工夫をする。お互いの表現の工夫や違いを気づかせ、表現の幅を広げるよう促す。 ・対話的な鑑賞の授業を通し、自分の感想を発表することで主体的に学び、他の人の発表を聞くことで、いままで気付かなかった視点があることに気付くなどの能力を高める。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・美術の活動に意欲的に取り組み、熱心に制作する生徒が多いが、主体的に取り組むことが苦手な生徒もいる。 ・取り組む意欲が高い生徒と低い生徒の差が大きい。 ・表現の基礎となる「描写する力」「配色を工夫する力」「構成を発想する力」を伸ばしたい。 ・鑑賞の授業で、美術作品や他の生徒の作品について、興味を持って鑑賞する生徒が多い。感じたことを造形用語を取り入れながら書けるようにする。また作品の制作された年代の時代背景なども考えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 【授業の質を向上させる取組】 ・視覚的に分かりやすく記憶に残る導入の工夫、制作に集中して活動できる美術室の整備を行い、生徒も各自の端末を使用して、発想の一助にしたり、自分の作品を記録/活用することが出来る。 ・生徒作品や参考作品を示し、友達の良いところを理解し、表現の工夫や違いを理解し、新たな視点も持つよう促す。 ・ワークシートの記入を具体的な言葉で行い、他者との違いを認め、自分自身を大切にす気持ち、他人の作品や表現も大切にす気持ちを育てる。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・美術の活動に意欲的に取り組み、熱心に制作する生徒が多いが、集中力・進捗に差がある。 ・表現の基礎となる「描写する力」「配色を工夫する力」「構成を発想する力」で独創性を深めたい。 ・鑑賞の授業で、興味を持って鑑賞する生徒が多い。感じたことを的確かつ具体的な言葉で書けるようにする。また、他者の気持ちや考え方、手法の良さを理解し、自分の取り組みに生かすことが出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> 【授業の質を向上させる取組】 ・今までの経験を生かし、思考・判断を広げ、表現を広げていくことができるようにする。 ・発想から完成までの工程を、見通しを持って計画を立て完成できるよう指導する。 ・作品完成後の作品に込めた思いを、具体的な自分の言葉でワークシートに記入する。自分が伝えたいことが表現できているかどうか、考えさせる。 ・参考作品を比較し、鑑賞することで丁寧な表現が達成感につながることを理解させる。



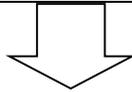
現状分析を受けて、3年間を通して美術科で身に付けさせたい力とその方策

- ・美しい物の素晴らしさを理解し、自己肯定感を高めさせると共に、自他の感情を尊重する態度を育成する。
 - 主体的かつ対話的に、互いの意見を交換し、他者の制作の意図を深められるような、作品鑑賞の時間を設ける。
- ・自分の表したい事を的確に作品に再現し、見通しを持って制作し完成させることが出来る。
 - 各時の目標を端的に伝え作成させる。授業の振り返りで、どの程度実行できたか確認する。
- ・自分の考えを的確に言語化し、他者に伝えることが出来る。また、他者の気持ちや考えを受け止め、自身の感じ方や考え方、表現方法を広げ深める。
 - グループワークで、自他の意見を伝えたり、深めたりする時間を設定する。

(7) 保健体育科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・運動が好きで積極的に行動する生徒もいるが、運動への苦手意識があり意欲に欠ける生徒もいる。 ・思考力や判断力があり、自ら行動することができる生徒が多くいる。 ・体育委員、係を中心に自主的に活動する姿勢がまだ身に付いていない。 ・安全面やルール・マナー面が徹底できておらず、集団で活動するための基盤が十分にとれていない。 ・振り返りの記入ができない生徒がいるため、自己の課題を確認することができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・準備運動で北中サーキットを導入する。また、Google formsで授業アンケートを行い、より分かる楽しい授業を工夫するために、授業改善を行う。 ・体育委員、係がリーダーシップを発揮できるような場面を多く設定する。 ・Google Classroomを活用し、家庭での予習を充実させる。また、授業後の復習に役立てる。 【授業の質を向上させる取組】 ・コーディネーショントレーニングを取り入れる。 ・Google classroomやスプレッドシートの使用方法を工夫し、生徒が使いやすい環境を整える。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・運動能力の低い生徒や集団行動の苦手な生徒が多い。一方でそのような生徒をフォローしながら、自主的に考えて行動することができる生徒も増えてきている。 ・スプレッドシートでの学習カードの記入が徹底できておらず、自己の課題を十分に振り返られていない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・補助運動を工夫し、基礎的な体力の向上に努める。 ・グループ活動を充実させ、意見を交換しながら自分の活動を振り返り、改善していける環境をつくる 【授業の質を向上させる取組】 ・コーディネーショントレーニングを取り入れる。 ・Google classroomやスプレッドシートの使用方法を工夫し、生徒が使いやすい環境を整える。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・運動が好きで積極的に行動する生徒もいるが、運動への苦手意識があり意欲に欠ける生徒もいる。 ・体育委員、係を中心に自主的に活動することができるようになってきている。 ・スプレッドシートでの学習カードの記入が徹底できておらず、自己の課題を十分に振り返られていない生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・補助運動を工夫し、基礎的な体力の向上に努める。 ・グループ活動を充実させ、意見を交換しながら自分の活動を振り返り、改善していける環境をつくる 【授業の質を向上させる取組】 ・コーディネーショントレーニングを取り入れる。 ・Google classroomやスプレッドシートの使用方法を工夫し、生徒が使いやすい環境を整える。

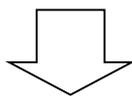


現状分析を受けて、3年間を通して保健体育科で身に付けさせたい力とその方策
<ol style="list-style-type: none"> 1 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。 2 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 3 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

(8) 技術・家庭科(技術分野)

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
1年	<ul style="list-style-type: none"> ものづくりの経験が浅く、あらゆる場面において、技術の見方・考え方を働かせる意識は低い、技術に関する新しい知識に対し意欲的に学ぼうとする姿勢がある。 技術が社会の発展や環境の保全などにとって不可欠なものであることの理解が不足している。 基礎基本の定着と主体的、対話的で深い学び、GIGAスクールによる新しい学びを創造することが求められる。 小学校からの学びのつながりを意識するように課題を配置し、問題解決に取り組ませる必要がある。 「設計・計画をする力」の育成と「技術による問題解決能力」の育成を重視し、生徒に技術の見方・考え方に気付かせることが課題となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入課題の工夫により、技術の見方・考え方を育む。また、興味関心を持続させながら作業を進めていくために、小学校からの学びのつながりを意識するように課題を配置し、問題解決に取り組ませる。 【授業の質を向上させる取組】 カリキュラムマネジメントの観点からも、小学校や他教科との関連を積極的に図るようにする。 授業内容に沿ったワークシートを作成し、基礎・基本の定着を図る。 学習記録シートを作成し、授業ごとの振り返りを行う。 製作途中に評価場面を設定し、その後の製作において改善や修正を行い、技術の最適化を目指す。
2年	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー変換に関する技術に興味はあるが、学習内容を自分の生活と関連させ、エネルギーを効率よく利用しようとする姿勢には乏しい。 技能の習得に個人差が大きく、その結果、作業進度にばらつきが生じることがある。 スマホ世代ならではの見方・考え方を身に付けている一方で、危機管理の意識は低く、情報セキュリティの指導の充実が求められる。 習得した知識や技術を活用し、課題解決のための学習活動を繰り返しておこなう必要がある。 自分の生活の環境を見つめ直すことで、問題を発見できるように指導する。 基礎基本の定着と主体的、対話的で深い学び、GIGAスクールによる新しい学びを創造することが求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> グループなどで対話する場面、協働の場面を設定し、「対話的な学び」を重視し、生徒同士での学び合い、地域社会との繋がり、先人に学ぶ姿勢にも焦点が当たるようにする。 【授業の質を向上させる取組】 単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、学習を見通し、振り返る場面を設定し、学習への主体的な取り組みを促す。 生徒が考える場面と教師が教える場面を明確に分けて授業を組み立てる。 「情報モラルテスト」「ICTプロフィシエンシー検定試験」などを取り入れ、個々の到達目標を明確にさせ、能力に合わせた支援をする。 内閣サイバーセキュリティセンター制作のインターネットの安全・安心ハンドブックを活用する。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 実践的な活動には、高い意欲を持って取り組むことができるが、創意工夫が苦手な生徒が多い。プロジェクト型問題解決としてのものづくりへと転換することが求められる。 限られた授業時数の中で、家庭学習を効果的に活用して授業の重点化を図ることが求められる。 総合的な問題解決は、カリキュラムの集大成として相応しい内容のものを選定する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 技術が果たす役割を、実習を通して感じた事や理解したことに関連づけることで、より理解を深めていく。 【授業の質を向上させる取組】 クラウド型3D-CADソフトを使用し、家庭学習にも対応させる。 総合実習として3Dプリンタを活用した題材を設定し、技術革新を牽引することができる資質・能力を育成する



現状分析を受けて、3年間を通して技術科で身に付けさせたい力とその方策

- 技術についての基礎・基本的な内容の理解や技能によって、問題を解決する実践的な資質・能力を育成する。
 - ※導入課題を工夫して、生徒が授業へ積極的に取り組む動機づけとなるように配慮する。
- 設計や製作などを通じて「技術による問題の解決」を構想しようとする態度を育成する。
 - ※身近な問題の発見から、問題解決の流れに沿って授業を展開する。
- 学習活動を通して、技術の目で問題を見出す力や、主体的に計画・設計する力を育成する。
 - ※科学的な原理・法則などを踏まえて計画・設計し、学んだ知識や技能などを用いて物作りを行う。
 - また、循環型社会や持続可能な社会について考えながら学べるように配慮する。

(8) 技術・家庭科(家庭分野)

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲もあり、前向きに授業を受けている。 ・家庭内での体験不足もあり、小学校の実習のみで日頃は家庭で何もやっていない生徒もいる現状である。 ・授業中の課題には、意欲を持って取り組んでいるが、家庭の中での体験が不足している生徒もおり、自ら生活の中で課題を見つけ、その解決に向けて工夫することの苦手な生徒もいる。 	<p>【授業の質を向上させる取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導をし、早めにアドバイスをする。 ・3年間の学習の目標を随時確認させる。また、毎時間の学習内容を示し、何を学んでいるか明確にわかるようにする。 ・長期休業中に衣食住に関する課題により、実践的な態度を養い、自らの生活の中で課題を見つけ、その解決に向け工夫して取り組ませる。 ・iPadの活用。教科書のQRコード読み取り、個々の課題の改善を図る。調べ学習に用いる。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲もあり、前向きに授業を受けている。 ・作品の製作においては、多くの生徒が熱心に取り組んでいる。 ・基礎基本的な縫う作業は小学校で学習してきたが、一部の生徒は忘れていく現状がある。基礎的な縫い方の定着を課題とする。 ・昨年に引き続き、中学校の50分授業に集中できずにいる生徒が一部に見られ、クラス全体の集中が途切れてしまう。 ・授業中の課題には、比較的意欲を持って取り組んでいるが、家庭の中での体験が不足している生徒もおり、自ら生活の中で課題を見つけ、その解決に向けて工夫することは苦手なようである。 	<p>【授業の質を向上させる取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間作業記録表の記入、提出により自分の進捗状況や自らの課題を明確にする。また、個別にアドバイスをする。 ・作品製作に入る前に、ミシン練習を行い、一通りの操作のしかたを理解させる。また、ミシンの扱い方の動画を段階毎に視聴し、グループで相互に教え合うなどで技能の定着を図る。 ・製作の説明時に、動画や実物見本を見せることにより、理解を深めさせる。 ・iPadの活用。教科書のQRコードを個々の課題の改善を図る。 ・ハード面の充実。ミシン台数の不足など計画的に揃えていくことにより作業効率を向上させる
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲もあり、前向きに落ち着いた授業を受けている。 ・作品の製作において、多くの生徒が、とても熱心に取り組んでいる。 ・創意工夫において、積極的に取り組む姿勢も見られる。 ・少ない授業時数の中で、知識理解と実践的な実習の取り入れ方のバランスを課題とする。 ・学習意欲もあり、前向きで落ち着いた授業に取り組んでいるが、裁縫に苦手意識を持っている生徒もいる。課題解決に向けて取り組ませる必要がある。 ・創意工夫のある作品を製作しようとすると、授業時間内では完成させることが難しい。 ・図案の段階から進度に個人差が出てしまうことがある。 	<p>【授業の質を向上させる取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・iPadの活用。作品例を多く見ることでイメージをつかみ、図案提出の効率化や作業能率の向上を図る。 ・ハード面の充実。ミシン台数の不足など計画的に揃えていくことにより作業効率を向上させる。 ・製作の説明時に、動画や書画カメラで実物見本を見せることで理解が深まり、即作業に取りかかれるようにしていく。 ・昨年度の生徒作品見本（写真）（実物）を提示することで、具体的なイメージを持たせ、製作意欲を高めさせる。 ・毎時間作業記録表の記入、提出により自分の進捗状況や自らの課題を明確にする。また、個別にアドバイスをする。

現状分析を受けて、3年間を通して家庭科で身に付けさせたい力とその方策

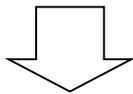
・実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を目指す。また、よりよい生活の実現に向けて、これからの生活を展望し、生活を工夫し創造する資質・能力と態度を育成を心がけ、3年間を通して身につけさせる。その方策として、生活の課題と実践など、主体的に取り組む問題解決的な学習内容の充実として、授業で学んだ内容を実生活で活用できる課題の設定をする。

(9) 外国語科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善策（手だて） 【授業の質を向上させる取組】 音読の際もオーバーラッピングやディクテーションを行い、音とスペルのつながりを意識させる。 単語テストなどを行い、語彙力の向上を目指す。
1年	英語が苦手だと感じている生徒の多くは語彙の定着が一番の原因である。聞こえた音の理解はできているが、アルファベットの並びでの判断は不十分である。中学進学段階で、できる生徒とできない生徒の差が年々大きくなってきているように思われる。	

現状分析		授業改善プラン
2年	区学力調査の結果の分析 目標値よりも教科の正答率は高く、特に活用の正答率は8.5ポイント高い結果となった。聞くこと・読むことの領域においては目標値を上回っているが、「書くこと」の領域、特に場面に応じて書く英作文に課題が残った。	具体的な授業改善案（手だて） 【授業の質を向上させる取組】 基礎・基本の定着を図るためのスモールステップを踏んだ段階的・継続的な指導を行う。 ＊リスニングやディクテーション、ライティングを行い、聞く・書く機会を多く持つ。 ＊ペア活動や retell の活動など、生徒が話す・聞く活動をする時間を確保する。 ＊デジタル教科書やプレゼンテーションソフト、クラスルームなどICTを活用した授業を行う。 ＊スペリングコンテストを計画的に行い、語彙力の向上を図る。
	授業における課題 基礎・基本の定着を図るため、英語を「聞く・話す・読む・書く」機会を意識して多く持つ。話されている英文を集中して聞きとったり、問題にじっくりと取り組む姿勢が今よりも身につくとさらに良いと考える。復習などを通して基礎を固めていくと同時に自立した学習者となるように指導していく。	
3年	区学力調査の結果の分析 全体的に目標値よりも正答率は高い。しかし、いずれも区の平均正答率よりも低い結果となった。特に「書くこと」の領域においては区よりも3.9ポイント低い。正しく単語が書けることも含めて「書く力」の育成が必要と考えられる。	【授業の質を向上させる取組】 ＊単語テストを通して単語力の育成 ＊iPadで音声を確認させながらリーディング練習を行い、新出単語を正確に読める力の育成 ＊ペア活動や Retell の活動を通して、生徒が話す・聞く活動時間の確保 ＊学習した文法を活用した英文を書く時間の確保 ＊視覚的に理解できるようにデジタル教科書や Google Classroom などのICTを活用した授業を行う
	授業における課題 基礎・基本の力を育成するとともに、「読むこと」を意識して学習させている。課題である「書くこと」に関しては二極化が見られる。文章の組み立てを理解させるために、基礎・基本となる文法を意識させながら、短文を多く書かせることが必要と考える。	



現状分析を受けて、3年間を通して外国語科で身に付けさせたい力とその方策
宿題や単語テスト・スペリングコンテストで語彙力などの知識技能を身に付ける。また、ALTや教科書の内容・普段の授業から異文化に触れる機会をもち、文化に対する関心を持ち、互いに異なる立場を尊重し理解を深めさせたい。ペア活動やライティング活動を通して、自分の考えについて間違いを恐れずに相手に伝えようとする力も身に付けさせたい。
少人数指導の充実（実施校）に向けて
ALTの活用の工夫 ＊文法事項の導入や復習、アクティビティの紹介と授業での実践。 ＊自分の考えや意見を言えるように、少人数でのALTとの関わりの時間を設ける。 ＊Performance testでの助言や評価。

(10) 特別の教科 道徳

【中学校】

